



着想から20年、具体化から10年が経過した神戸大学
井上欣三名誉教授が提唱する『災害時医療支援船構想』の取り組みが、阪神淡路大震災20年を前に、国の仕組みとして実現する姿がみえるところにまできました。
平成26年5月以降の動きについて報告いたします。

【1】 2014年5月17日 井上欣三神戸大学名誉教授が内閣府西村防災副大臣とともにシンポジウムで講演

一兵庫県民の医療と福祉を守る会「第4回県民フォーラム」

このフォーラムでは、船の輸送機能・宿泊機能の活用以外にも、生活機能を活用して船を避難所として利用し、船内でJMAT※が医療・福祉・介護を提供する避難所船構想がテーマとして取り上げられました。これは、「災害時医療支援船構想」の取り組みのひとつであり、災害関連死予防に対応するための船と医療の連携プログラムです。

※JMAT：日本医師会が組織する災害対応医療チーム

なお、シンポジウム講演ならびにパネルディスカッションにおいて、井上欣三神戸大学名誉教授から、内閣府（防災担当）西村康稔副大臣に、災害時医療支援船構想の実現に向けて

三つの要望

がのべられました。

フォーラム開催に関連して、5/16産経新聞および5/18神戸新聞に記事が掲載されました。なお、6/29神戸新聞は、このフォーラムの全容を紹介した特集記事です。

○ 2014. 5. 16 産経新聞記事（フォーラム開催に関連する記事）

○ 2014. 5. 18 神戸新聞記事（フォーラム開催に関連する記事）

○ 2014. 6. 29 神戸新聞記事（フォーラムの全容紹介の特集記事）



①フォーラム会場

②井上名誉教授講演





③シンポジウム



④パネリスト



⑤シンポジウム



⑥記者会見

[実現に向けた思考手順 PPT図](#)